

学びに "プラス1" ～意思決定の模擬体験～

〈中学公民「地方の政治と自治」～住民の声を生かす～〉

地域の政治における住民参加の手段について、教科書（『新しい社会 公民』東京書籍）では、次のように紹介しています。

中項目「4 地方の政治と自治」 小項目「住民参加の拡大」

住民投票は、具体的な問題について賛成・反対といった意見を住民が直接あらし、首長や地方議会を動かす機会です。住民投票を行うときは、住民一人ひとりがさまざまな意見をよく聞いたうえで判断できるようなくふうも必要です。

そのほかにも、住民の声を生かすくふうが見られます。例えば、地方公共団体が政策を行うとき、対象となる地域の住民とあらかじめ協議を行うしくみを設ける場合があります。（下線は筆者）

社会科は、「どのような社会をつかっていけばよいのか」について考える教科です。

社会的な問題について、解決策を考える際に、**住民一人一人が意見を出し合い、議論し合って、よりよい解決の糸口を見つけ出す**といった**“住民参加の手段、**について、授業の中で子どもたちに**実感的に学ばせたい**ものです。

しかし、現実社会における問題は、複数の問題要素が関係し、絡み合っているケースが多く、「これが正解」といった答えや解決策を、単純明快にすっきりとした形で見いだすことが困難な場合が少なくありません。

そこで、今回の**“プラス1、**は、**ジレンマが生まれる社会的な問題の提示により、子ども一人一人が自分なりの考えをもち、級友と議論し合い、自分の意思を決定する**実践例について紹介します。

【問題】（例）

あなたは市民です。

あなたのまちは、木造住宅が密集し、地震が起これば大きな被害が出ると予測されます。

市役所は、災害に強いまちづくりのために道路拡幅を計画する予定です。そうなれば昔ながらのまち並みが失われてしまいます。

あなたは、道路の拡幅計画に賛成しますか？

YES（賛成） or NO（反対）



上記のようなジレンマが生まれる問題を子どもたちに提示し、一人一人に考えさせます。このようなジレンマが生まれる問題では、子どもたちの考えが賛成と反対の二つに分かれます。また、賛成と反対のどちらか一方の考えが「正解」ということはありません。そして、答えをすぐに見いだすことができません。したがって、**級友と議論し合い、悩んだ末に判断して、自分なりに導き出した答えが“意思決定、**となります。



また、**よりよく意思決定する力を高めるためには、**社会的な問題に対して、**多面的・多角的な見方・考え方をさせた上で判断させる**ことが大切です。

教科書（『新しい社会 公民』東京書籍）では、地域で行われているまちづくりの取組に対する“意思決定”について、次のように述べています。

中項目「4 地方の政治と自治」 小項目「わたしたちの政治参加」

地域で行われているまちづくりの取り組みを調べましょう。また、それらを比較する中で、地域をよくするためにはどのような取り組みが有効か、自分たちの考えを決定しましょう。（下線は筆者）

ジレンマが生まれる社会的な問題を提示して、級友と議論し合い、意思決定させる模擬体験を通して、地域の政治における住民参加（議論と意思決定）について実感的に理解させることができます。



「社会」は、人間の営みによって形成されるものであり、絶えず変容していきます。そして、社会科は、そのことを考えていく教科です。

社会的な決定は、私たち国民に委ねられています。未来の社会を担う子どもたちに、社会科の授業の中で、そのことを体験的、実感的に学ばせることを通して、よりよい社会を形成していくための力を育みたいものです！